

相模ダムの誕生から現在まで -相模ダム70年を振り返って-

相模ダム完成（河水統制事業竣工）

相模川河水統制事業の背景

相模川は、ふるくから流域の人々の生活用水、農業用水、観光及び漁業などに利用されてきました。明治時代に入ると都市の発達に伴い、我が国最初の近代水道として発足した横浜水道をはじめ各町村の水道用水に利用されるようになりました。

昭和11年12月の通常県議会で、県営京浜工業地帯造成事業の開始が決定され、近い将来、さらに新たな工業用水及び電力が必要な情勢にありました。また、京浜・湘南地区一帯の諸都市もまた拡大の一途をたどり、新たな水道水源の確保が強く望まれておりました。

相模川河水統制事業

昭和13年の歴史的な臨時県議会で相模川河水統制事業は議決され、事業が開始しました。

その後、昭和15年11月25日に、盛大な起工式を与瀬町地内の相模川のほとりで挙行し、当事業はいよいよ建設段階に入りました。

計画当初の予算は、当時の県の年間予算の2年分を超える2,680万円でしたが、工期の延伸に伴い、戦後のインフレ期に事業の完成が持ち越されたために、事業費も逐次増大し、最終的には2億7,119万余円となりました。



ダム建設前の風景



建設時の相模ダム



相模ダム建設当時

相模川河水統制事業の完成

～昭和天皇、香淳皇后両陛下下行幸啓～

昭和22年4月1日には、神奈川県電気局を設置し、電気事業及び相模川河水統制事業を経営することになりました。そして、相模発電所2台目発電機の完成が近づいた昭和22年6月14日には相模ダムの湖畔で盛大な竣工式を行いました。この日、県内外から迎えた多数の来賓とともに、相模ダムの建設に伴い、故郷の地を離れた方々も参加しました。

また、昭和22年7月には相模ダムの洪水吐ゲートが完成し、7月17日には相模ダム、相模発電所に昭和天皇・香淳皇后両陛下をお迎えしました。両陛下は、内山知事らの案内により、親しく工事現場の全貌をご視察された後、相模湖を船で一巡され、故郷の地を離れた人々のその後の生活状況についてもお言葉をいただいたとのことです。



相模ダムを訪問される昭和天皇・香淳皇后両陛下



相模川河水統制事業地域鳥瞰図

水道事業、相模原畑地かんがい事業に分水開始

横浜市、川崎市では、本県の相模川河水統制事業着工とほぼ同時に相模湖から分水を受けるための工事に着工していましたが、戦局の激化によってその完成は戦後に持ち越され、横浜市水道へは昭和24年に、川崎市水道へは昭和27年になって相模湖の水が分水されました。

また、相模原開田事業も戦中、戦後の社会情勢、特に食糧事情の動向に伴って計画変更され、昭和23年に相模原畑地かんがい事業として着工し、昭和31年からこの事業に分水が開始されました。

その後、昭和45年度まで事業を行いました。当該地区の都市化に伴う土地改良区の解散等もあり、昭和46年度以降、分水は中止されました。そして、畑地かんがいに係る水利権は平成4年に廃止となりました。



畑地かんがい用水路

(神奈川県立公文書館所蔵)



畑地かんがい用水路で使われていた虹吹分水池